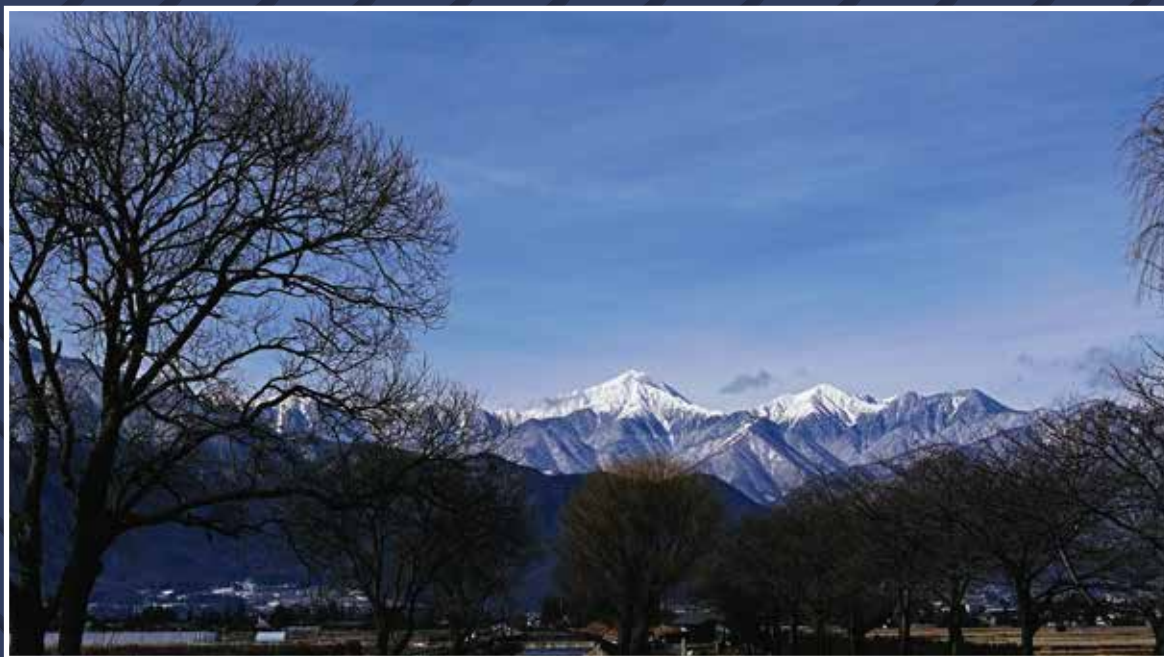


NTK てっこう長野 Vol.37

2020 年 1 月

製作：長野県鐵構事業協同組合
E-mail : jim2014@na-tetsu.jp

TEL.026-228-5748
FAX.026-228-0590



『中信支部（有）内川鉄工製作所 内川 健治 提供』

理事長挨拶	2
顧問県議と懇談会	3
組合員だより（南信支部）	7
理事会・委員会だより	8
Mグレード部会研修事業報告	9
青年部会だより	10
平成31年度前期技能検定『構造物鉄工』『とび』合格率	11
工場認定申請及び予定状況	12
M・H・Sグレードの品質管理体制に関する運用指針について	12
組合員の動き	12
組合からのお知らせ	13
「信州の名工」を受賞して・高木秀雄様より	13
編集にあたって／表紙のことは	14

理事長あいさつ

鉄鋼業界の安定に向けて



長野県鉄構事業協同組合

理事長 飯島 正博

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

日頃は長野県鉄構事業協同組合の事業並びに、会員企業に対してご理解・ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年の台風災害は甚大な被害を各地に残しました。一日でも早い復旧・復興が成され、元の平穏な状態が取り戻せますことを心よりお祈り申し上げます。

さて、昨年の鉄鋼業界は安定的に仕事の需要があった一方で、材料や副資材の手配難や納期の長期化といった問題が生じました。特にハイテンションボルトがひっ迫して過去に無いまでの入手難となって、関係の皆様にはご心配・ご迷惑をおかけいたしました。昨年秋以後にはこのことも緩和されてまいりました。

また、工場従業員・現場作業員・鳶職・現場溶接工や鍛冶工などの技能専門職の不足が一層顕著になっています。工期への影響に及びはないかと心配されます。鉄構事業協同組合では、鋼構造物鉄工や鳶をはじめとした各種資格取得のための講習会を実施して、技術・技能の

向上の人材育成に取り組んでいます。各種検定の受検者数は年々増加しており、組合員各社の人材育成に対する取り組みへの意識が強くなっているように感じられます。

また、「働き方改革」への対応も急務となっています。鉄鋼業界では中小企業での残業時間の上限規制が4月より開始となります。自社での労働時間の把握や労働時間の見直しへの取り組みも迫られる中で、生産量を維持するために、如何に生産性を向上させるのかが大きな課題となります。省力化のための設備の更新やさらなる新規設備投資などの他、従業員のスキルアップをはかることもかかせません。今年は鉄骨品質の確保のための講習会・研修会の実施、そして組合員企業の社員のスキルアップのために、技術・技能者育成のための教育事業を実施してまいります。そして魅力ある鉄鋼業に向けて労働環境の改善に努め働き方改革を進め業界のこれからの安定につなげてまいりたいと考えています。

本年も、変わらぬご指導・ご協力をお願い致します。皆様のご健勝とご多幸を御祈念申し上げます。



顧問県議と行政との懇談会

1 月 28 日（火）にホテル犀北館にて開催されました。

今年度は、中信支部担当顧問 長野県議会議員 萩原清様にご欠席でしたが、他県議会議員 風間辰一様、平野成基様、佐々木祥二様にご出席を頂き、県建設部より建築住宅課課長、小林弘幸様、施設課課長 塩入一臣様、施設課企画幹兼建築住宅課主任専門指導員 久保田達也様のご出席を賜りました。

懇談会の後、報道関係の方や、組合相談役の参加をいただいて新年会を開催致しました。

今年度の議題は下記の 4 項目です。

- ①県の管理建物の耐震化の進捗割合、状況と老朽化した建物の建て替え等の計画について。
- ②緊急時の輸送道路が位置づけられているその道路沿いの建物の耐震化の進捗、動向。
- ③数年後に長野県で国体が開催されるので、新しい施設について。
- ④木・鋼ハイブリット構造の今後について。

・司会進行は倉科副理事長の挨拶ではじまり、懇談会の座長及び進行は飯島理事長により内容を精査され進行しました。

①県の管理建物の耐震化の進捗割合、状況と老朽化した建物の建て替え等の計画について。

当組合、酒井運営委員長より質問していただきました。

- ・老朽化した建物が長野県内に現在どの位ありますか？またその物件が耐震化工事に進んでいくのか、または、建替えになっていくのか教えて下さい。

建築住宅課 久保田様より回答

・県が管理している建物の耐震化についての進捗状況ですが、県有施設耐震化整備プログラムに基づいて耐震化をしております。昭和56年の5月以前の旧耐震基準による建築物を対象として、特に災害拠点施設や多数の方が使用する建築物 607 棟に関して耐震化を行ってまいりました。現在第 2 期といたしまして、平成28年から令和 2 年まで災害拠点施設の割増し補強を18棟、中規模建築物の耐震化といたしまして、173棟と、特定天井の耐震化51棟について進めてまいりました。現在の進捗率は、概ね 85%になっています。只今、県の管理する建物は約9000棟あります。



顧問県議と行政との懇談会

長野県ファシリティマネジメント基本方針に基づきまして、有効活用、総量の縮小、長寿命化、この 3 つの観点から進めてきているところでございます。

予算に限りのあるなかで、それぞれの優先順位をつけて修繕を行ったり、場合によっては建替えを行っております。個々の修繕につきましましては、それぞれ所管している部局がありまして、建替え等にはそちらで検討を進めています。

今後、松本市陸上競技場の建替え計画や、御岳ビジターセンターの新築が見込まれています。高校については、第 2 期再編が行われて順次整備するようになっています。以上になります。

②緊急時の輸送道路が位置づけられているその道路沿いの建物の耐震化の進捗状況

酒井運営委員長に質問していただきました。

- ・昨今では、都市部の主要道路沿いの建物の耐震化が行われてきていますが、長野県の国道 18 号、19 号、20 号沿いの民間の建物についてはどのような動向ですか？また、幹線道路沿いの建物の耐震化や規制など行われていますか？

建築住宅課 久保田様より回答

耐震改修促進法に基づく耐震診断を義務づける道路の指定につきましては、沿道建築物の実態調査をもとに、市町村や関係部局に調整の上、指定に向けました検討を行う事としています。この調査等の状況の対象ですが、県全体の骨格となる国道等のうち、人口が密集

した地区（D I D 区間）全長約 103 k mを対象とした中で検討していくこととしており、調査の結果 569 棟が不適格となっています。以上です。

酒井運営委員長より回答に対して質問がありました。

- ・不適格が 569 棟が算出されているということですが、実際のところの進捗状況についてお知らせ下さい。

回答…

569 棟ですが、平成 26 年に調査をかけた時点で、仮に倒壊した場合、道路の障害になる建物について調査をした結果の数字でござい

ます。全てを義務化して改修するのは、予算等もあるので、優先順位をつけていかなければならない。今後、市町村のご理解を得て検討していかなければならない。

569 棟の現状ですが、来年度第 3 期見直しがありますので、その中で実態調査も含めて計画の練り直しがあると考えています。

以上です。

③数年後に長野県で国体が開催されるので、新しい施設について

酒井運営委員長に質問していただきました。

- ・2027 年に長野県で国体が開催されるので、新しい施設についてご質問いたします。県の施設や市の施設についてどのような計画がござい
- ますか？すでに新聞等で発表されていますが、予定等をお聞かせ下さい。

顧問県議と行政との懇談会

建築住宅課 久保田様より回答

2027年に開催予定の第82回国民体育大会、第27回全国障害者スポーツ大会の開・閉会式場、陸上競技場に予定されている松本平広域公園陸上競技場ですが、建築から40年以上が経過してしまして老朽化が著しいことと、バリアフリー化がなされていないこともあり、検討の結果、現在の位置に建て替えることが最適ということになりました。

競技団体や、障がい者団体をはじめ、広く県民の皆様にご意見を伺いながら具体的な設計を行いまして、令和7年度の完成を目指しています。概略は、観客席は2万席で、メインスタンドの屋根下、約7000人分を確保します。総事業費は約130億円が見込まれています。現在の進捗状況につきましては、令和元年11月の補正予算によりまして、基本設計、地盤調査に必要となる予算をいただいております。今後施設の規模、形状、レイアウトなどを具体化していくこととしています。以上です。

④木・鋼ハイブリッド構造の今後について

宮下青年部会長に質問していただきました。

- ・今後10年先の鉄骨需要を見据えると、需要が停滞期に陥ることが予想されます。公共物件のS造化はさておき、木を採用するケースは少なくないとみています。昨今の鉄の役割りも徐々に変化しています。新国立競技場にも採用された「木と鋼のハイブリッド構造」で有ります。木材に鋼材を組み込んで柱材として強度をあげたり、耐震補強にも採用され大空間を実現することが可能になりました。長

野県は林業が盛んであり、体育館や市民センター等にハイブリッド構造も適しているであろうと思います。また県の林務部では、地産地消型の加工流通体制の整備を方向性として示していますが、当県の製材工場(林業・木材産業)と我々の鉄骨が結び付けば近い将来、産業として成り立つのではないかと考えます。そこで、当県の公共工事においてハイブリッド構造が採用された物件があるのかお聞きしたいのと、鉄骨との取り扱い等について説明をよろしく願いいたします。

建築住宅課 久保田様より回答

木と鋼のハイブリッド構造についてのお話をいただきましたが、県の施設を設計する場合において構造躯体につきましては、建物の用途や規模に応じた構造方法を選定しています。県の事業と致しましては、佐久の県立武道館などは、屋根の架構としてハイブリッド構造を採用しています。

鋼材の使用量としては、1,000トン弱という状態です。

参考資料(図面)を見ながら鉄や木の使用部分、ハイブリッド部分や構造部分についての説明がございました。

以上で組合から事前をお願いしていた議題に対する質疑・応答は終了し、以降は各理事さんから質問をしていただきました。

台風19号の災害関係、働き方改革、長野県内の交通問題など多岐にわたりました。その質問に対して行政及び県議からの応答を抜粋してまとめました。

顧問県議と行政との懇談会

①昨年発生した台風19号による長野県内の災害に対して災害復旧への対応状況、防災、減災に対しての対応などの質問が多く出ました。

行政から

- ・今回の災害では本来緊急時に応急対応しなければいけない県有施設の罹災があった。例えば県のリハビリセンター、飯山警察署、交番など、これらを踏まえ、各施設に対しハザードマップ上で調査し今後の浸水対策などに対応していきたい。
- ・千曲川対策を国交省に働きかけている。遊水地を設ける。民間宅地から流さないなど総合的対策を検討していく。

風間県議

- ・今までの災害復旧に対しては現状復旧が基本であった。政治で何とかならないかとお話があったが、改良復旧（ビルドバックベター）への方針変更を国に働き掛けている。
- ・千曲川は上・下流の一体的な治水対策を求めて、国の一元管理を提言していく。立ヶ花、飯山の狭窄部の拡幅、河川の掘削同時に上流部に防水機能を持ったダム、遊水地、堤防の改良などを働き掛けていく。
- ・また水害で罹災したリンゴ農家への事業承継等支援を農水省に働き掛け推進していく。

②働き方改革についての質問ゼネコン絡みで週休2日制、残業の削減などでまた基本賃金の引上げ、年金・福利厚生費の増加などで工期、受注単価など見直しが必要となる。しかし、ゼネコンの都合などによりなかなか単価等に反映できない。製作工場の工程管理等も含め

ゼネコン、設計事務所の指導をお願いしたい。

行政から

- ・元受けと受注先とのやり取りだけで解決できない。情報の共有の仕組みであったり、どこかで頑張って解決できる問題ではない。つないでいく大きなヒントをいただいた。改善できるポイントをお知らせいただければありがたい。

まとめとして

平野成基県議から長野県の非常時の時、復興・復旧が一番大事。この危機を皆さんと乗り切っていききたい。

佐々木祥二県議からは皆さんの声の代弁者として共に行動していきたい。

最後に風間辰一県議からは長野県鐵構事業協同組合とは運命共同体として今後も歩んでいきたいと挨拶をいただきました。



会議終了後の組合新年会の様子

組合員だより



中信支部組合員だより



赤羽鉄工 (株)
代表取締役
赤羽 廣治

建築雑感

日頃は当組合にお世話になり感謝申し上げます。又先般の台風 19 号で被災された方々には改めてお見舞い申し上げます。

この度何か書いてくれ。と言われて困惑している次第です。

昭和、平成と激動の時代を歩んで令和元年も暮れようと相なりました。時系列で話しを進めて行くことにしよう。

建築鉄骨には今から 43 年前から携わって来ました。1 年生の私は現場も知らないうちに毎日毎日施工図書き、上司は「早くマンガを書けよ。そのマンガ何時挙がる？」という様に。当時私が通った会社は設計図 (意匠、構造) を「絵」と俗称していたんだ。俗称と言えば、それだけでこの欄が埋まってしまうから、もう止めよう。

1975 年昭和 50 年代に中小ビルで流行った日型断面というのがありました。coverPL を当てる為、なかには中に入って見えなくなってしまう為誤魔化しを効かした鉄骨も有ったと思います。私は誤魔化しは不器用なので出来ませんでした。今思えば隅肉溶接長が長い建築鉄骨の最たる物で有ったと思います。

1980 年代に入って、ようやくコラム構造の建築鉄骨が普及してきました、このデティールはまもなく 40 年になります。この間非破壊検査の普及、阪神淡路大震災に遭い建築鉄骨が大きな焦点になります。完全溶け込み溶接～スカーラップの見直し～エンドタブ～パス間温度

等あちこち議論がなされました。特に地方の設計屋さんにはよくは解釈していなくて、我々ファブは苦勞したものです。

1990 年代の後半からいよいよパソコンの時代に突入。手書き施工図は CAD やら DXF やらで床書き作業は 2000 年初頭から建築鉄骨には必要が無い状態となっています。又構造計算もパソコンに全てデジタル化されている。そして 2005 年姉齒事件が起きてしまった。我々もその影響を受けたのは言うまでも無い。2008 年に K5622 の廃止 (シックハウス症候群)、現在は K5674 が多く仕様に書いてある。

最近では基礎杭の偽造報告書、耐震ダンパーの偽造報告書そしてここ 2 年近くの HTB のひっ迫等起こっている。機械に頼る、デジタルを頼るのはいいが、頼られては人間の負けだ。我々は製作に当たり一つ一つ「果たしてこれでいいのか？」を検証して行かなければならない。デジタル溶接機の普及で腕が無くても鮮やかにキレイに溶接が出来るのには感心する。又木造住宅は在来工法が見直され、ほとんどの現代住宅は言い方は悪いが大手大量生産の餌食。

10 月末文化遺産の沖縄首里城が消失してしまったのも記憶に新しい。残念でならない。朝メールチェックをして 1 日が始まり、AI だの IOT だのよくわからない時代に差し掛かっているのが令和元年だった。電車に乗れば皆スマホを睨んでいる。おかしい時代に差し掛かっている様な気がする。いつも言える事だが製作のプロセスが一番大事。扱、現場以降は省略。

安心して下さい。ぼつぼつこちらでおしまいとさせていただきます。お疲れ様でした。今夜は蕎麦が御馳走の様です。蕎麦に辿り着くまでのプロセスが好きなんです。楽しみなんです。切ない事にこれが女房にはなかなか理解して戴け無いんです。尚、年代順に自分なりに書いてきたつもりですが、ズレがあるかも知れません。ご容赦ください。来る年が皆様にとって佳き年となります様お祈り申し上げます。

理事会、委員会だより



正副常任理事会、理事会、各委員会開催状況

(自令和1年7月～至現在分)

日時	会議名	場所
令和1年 7月 23日	第1回運営委員会	長野市「和酒活彩あつ美」
〃 7月 25日	第3回理事会	長野市「ホテルメルパルク長野」
〃 8月 29日	第3回青年部役員会	長野市「組合事務所」
〃 9月 30日	第1回正副常任理事会	長野市「ホテル犀北館」
〃 10月 4日	第3回技術委員会	松本市「JA 松本市会館」
〃 10月 25日	第4回青年部役員会	長野市「組合事務所」
〃 11月 13日	第2回運営委員会	長野市「組合事務所」
〃 12月 7日	第5回青年部役員会	長野市「やま茶屋季石庵」
〃 12月 18日	臨時技術委員会	長野市「組合事務所」
令和2年 1月 28日	顧問県議と行政との懇談会・新年会	長野市「ホテル犀北館」

運営委員会からのお知らせ

この度、組合での販売品目が追加になりました。
詳しくは、ホームページの組合員へのお知らせをクリック
していただき、各種販売品のご案内を開けてください。

追加品目といたしましては、

フルサト工業 株式会社の『フルブレース』『スパークアーマーシート』各サイズ。
コンドーテック 株式会社の『コンブレース』や『コンドー胴縁ボルト』『コンドーデッ
キバー』など3品目

株式会社 USENの『USENでんき(高圧)』『USEN LED』など。

株式会社 THL(旧東北ライティング株式会社)『LED証明 工場、倉庫照明』

有限会社 サカモトの3品目『工作機械タンク内清掃、洗浄』『バカナII』

『SM-ネオカット(18ℓ)』など

以上の5企業の製品を共同購入販売品追加と致しました。



M グレード部会 令和元年度研修事業報告

令和元年11月20日(水)16時より、ホテルモントーニュ松本においてMグレード部会(会長 奥村 剛氏)開催による研修事業が行われました。

今回の講演会は、有限会社アオキビルド 社長 青木久隆氏を講師に招いて『鉄骨加工業における外国人材の活用について』の講演を頂きました。

(PDF 参考資料添付)

外国人の在留資格について…

技能実習生、在留期間3年、最長5年(随時3級合格者)となり、言葉や習慣の違いの克服。その間の技能検定資格取得や、住む場所、生活面のサポートについて、また技能実習生を受入して良かった事や大変だったことについての話など。参考資料を作っていただいて、解かりやすく解説して頂きました。

この大変だった事については、とても興味深く、例をあげますと、①3年(5年)で帰ってしまう。②言葉がなかなか通じない(特に専門用語は全くわからない)③実習生の入れ替え時には、加工量と品質に影響が出る。④わかったと言っても違うことをやりだす。等々⑤しかし1年たつと日本語も仕事もだいぶできるようになって頼もしくなる。但し、日本人の感覚で指示したり怒ったりすると「もう国へ帰る」と言うこともあるなど。(添付資料P11～P14 参照)

最後に、技能実習生が日本に来れるのは、『1回だけ』文化や考え方を理解し、尊重する事、日本人の考えを一方的に押し付けるのでは、信頼関係は、築けない。日本に来てよかった。この会社に来てよかったと思ってもらえる企業を目指したいと締めくくっていただきました。

この後、3グループ(グループシェア)に分かれて討論が行われました。

討論で出ました意見としては、

- 1、コミュニケーションがとれない。結果2人以上で受入するとコミュニケーションがとり易い。
- 2、若い20代の子の方が日本語を覚える。但し、家族が居る人の方が熱心。残業をして稼ぎたいと希望する人が多い。
- 3、3年で帰るのは、覚えた頃で辛い。長くして欲しい。
- 4、ごみの不法投棄などがあるが、そのような管理が難しい。
- 5、採用基準は、日本語のよくわかる人をいれる。
- 6、日本人を採用する努力も必要だとする意見もでました。

今後、外国人の採用を考えてる企業や、日本人のみで採用している企業にも、人の採用の難しさや、時代の変化を考えさせられる研修事業でした。



研修会の様子

青年部会だより

「青年部会一都三県（東京都・栃木県・群馬県・長野県）合同交流会」

令和元年 11月30日(土)

11月30日(土)、一都三県の合同交流会が、東京都から2名、栃木県から5名、群馬県から3名、長野県から13名が出席し、長野県松本市にて開催しました。

国宝松本城の見学、城下町の街並みを散策するとともに、会員相互の親睦を深めることを目的と致しました。

国宝松本城は、深志城が始まりと言われ、現存する5重6階の天守の中で日本最古の国宝の城で、大天守（だいてんしゅ）、乾小天守（いぬいこてんしゅ）、渡櫓（わたりやぐら）、辰巳附櫓（たつみつけやぐら）・月見櫓（つきみやぐら）の5棟で形成されています。戦国末期の城とはいえ、戦いに備えての鉄砲狭間（てっぽうはざま）・矢狭間（やはざま）・石落としを備えていました。

国宝松本城の当時の役割ですが、江戸の徳川家康を監視する城として、甲府城、高鳥城、上田城、小諸城、沼田城とともに、豊臣秀吉側の

城主が配置された江戸包囲網の1つの城とされているようです。

平日にもかかわらず、多くの観光客が見学しており、すべて木造で造られている骨組み、急勾配な階段を見学・体験していました。暖房設備が無い為、足裏が非常に寒かったのを覚えています。

国宝松本城の見学の後は、城下町の町並みの見学として、縄手通り、中町通りを散策し、土蔵の建ち並ぶ風景、城下町松本の風景を楽しみながら、見学しました。

その後、懇親会会場の「凡蔵」へと移動し、大いに親睦を深めることが出来ました。ゲストとして、長野県鐵構事業協同組合・飯島理事長、長野県鐵構事業協同組合中信支部支部長・倉科支部長にご参加いただき、倉科支部長からは、松本市のアピール、そして「青年部として有意義な交流の機会をたくさん企画し、多くの意見交換し合ってほしい」と語られました。



平成 31 (令和 1) 年度前期技能検定合格率

H31(R1) 年度 前期 技能検定 試験結果

職種：鉄工 作業名：構造物鉄工作業 (下記表の PDF 画像はこちら)

総合合格率							講習会受講者合格率					講習会非受講者合格率				
職種/級	科目	合格者数 受検者数	合格率	前年度 との比較	H30年度 合格率	H29年度 合格率	受講合格者数 受講者数	合格率	前年度 との比較	H30年度 受講者 合格率	H29年度 受講者 合格率	非受講合格者数 非受講者数	合格率	前年度 との比較	H30年度 非受講者 合格率	H29年度 非受講者 合格率
1 級	実技	7 / 26	27%	<	46%	47%	6 / 19	32%	<	56%	36%	1 / 10	10%	<	25%	67%
	学科	18 / 21	86%	>	67%	67%	13 / 14	93%	>	70%	88%	4 / 6	67%	>	64%	43%
	技能士	9 / 28	32%	<	44%	43%	8 / 18	44%	=	44%	36%	2 / 11	18%	<	38%	56%
2 級	実技	12 / 22	55%	<	65%	56%	10 / 17	59%	<	73%	61%	2 / 5	40%	<	56%	50%
	学科	20 / 21	95%	>	89%	58%	9 / 9	100%	>	91%	69%	11 / 12	92%	>	86%	67%
	技能士	15 / 25	60%	<	67%	43%	10 / 17	59%	<	73%	39%	11 / 14	79%	>	62%	56%

※技能士受検者数には実技・学科の片方科目のみ受検、片方科目の受験免除者を含みます。

※2級の総合合格率及び講習会受講者合格率は県外受検者（1名）を含みます。

※講習会受講者には講習会当日欠席者を含みません。

※講習会受講者の技能士については、実技のみ・学科のみの片方受講者及び両方受講者を含みます。

※非講習会受講者の技能士については、実技のみ・学科のみの片方及び両方当日欠席者も含みます。

職種：とび 作業名：とび (下記表の PDF 画像はこちら)

総合合格率							講習会受講者合格率					講習会非受講者合格率				
職種/級	科目	合格者数 受検者数	合格率	前年度 との比較	H30年度 合格率	H29年度 合格率	受講合格者数 受講者数	合格率	前年度 との比較	H30年度 受講者 合格率	H29年度 受講者 合格率	非受講合格者数 非受講者数	合格率	前年度 との比較	H30年度 非受講者 合格率	H29年度 非受講者 合格率
1 級	実技	29 / 39	74%	<	76%	71%	21 / 35	60%	<	82%	76%	1 / 4	25%	>	0%	58%
	学科	29 / 37	78%	<	86%	73%	24 / 29	83%	<	94%	86%	5 / 11	45%	>	33%	38%
	技能士	29 / 40	73%	>	71%	59%	27 / 38	71%	<	80%	69%	5 / 12	42%	>	25%	29%
2 級	実技	3 / 4	75%	<	100%	80%	3 / 4	75%	<	100%	80%	0 / 0	0%	<	100%	100%
	学科	3 / 5	60%	<	75%	67%	3 / 4	75%	=	75%	75%	0 / 1	0%	=	0%	50%
	技能士	2 / 5	40%	<	75%	67%	2 / 4	50%	<	75%	67%	0 / 1	0%	=	0%	0%

※技能士受検者数には実技・学科の片方科目のみ受検、片方科目の受験免除者を含みます。

※講習会受講者には講習会当日欠席者は含みません。

※2級は実技のみ(A丙)が含まれております。

工場認定申請及び予定状況

工場数：66（内認定工場：46／未認定工場：20）（2020年1月1日現在）

○2019年前期の認定申請工場は3社でした。

内訳 H…3社

○2019年中間の新規認定申請予定工場は1社

内訳 R…1社

○2019年後期の認定申請予定工場は7社です。

内訳 M…4社 H…3社

※10月4日(金)に松本市「JA 松本市会館」で、性能評価研修会を開催いたしました。8企業16名の方に参加して頂きました。性能評価申請でご不明な点がございましたら事務局までご連絡ください。

◆◆◆ M、H、S グレードの品質管理体制に関する運用指針について ◆◆◆

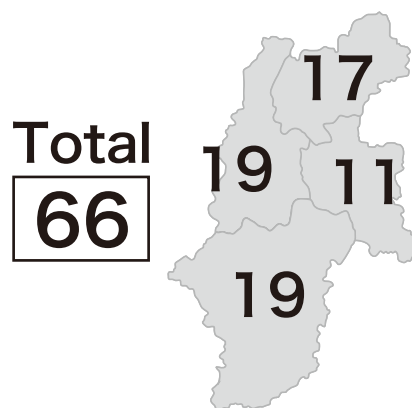
2019年度前期以降の申請から、内規3号の運用指針として「M、H、Sグレードの品質管理責任者に関する運用指針」を定め品質管理体制が適切であることを確認することになりました。具体的には、品質管理責任者の位置付けや役割等最低限の要件を定めた資料「品質管理責任者に関する報告書」及び「組織図、品質管理体制表等」を申請時に提出をお願い致します。(詳しくは、全鉄評のホームページをご覧ください。)

組合員の動き **NOW**

現在組合員数は66社です。

■ 北信支部	17社
■ 東信支部	11社
■ 中信支部	19社
■ 南信支部	19社

(2020年1月1日現在)



組合からのお知らせ

○令和 2 年 1 月現在の事務局の体制ですが、大日方産休（育休）に伴い、橋本淳一、北澤雅栄、井原こずえ、飯島美恵の 4 人体制で行っております。宜しくお願い致します。

○令和元年度信州の名工・優秀技能者表彰におきまして、フィット工業（株）会長 高木秀雄様が卓越技能知事表彰（信州の名工）を受賞されました。表彰式は令和元年 11 月 6 日（水）ホテル信濃路 穂高にて行われました。長年のご功績をたたえ、栄えある受賞を心よりお祝い申し上げます。ご受章おめでとうございます。

* 高木様より、受章のお言葉を頂きました。

『信州の名工』を受章して

高木 秀雄

昨年十一月、技術的に高い技量を持った人が大勢いる中で、長野県卓越技能知事表彰 13 人の中の一人に選ばれましたことは、大きな驚きと喜びであります。

工業高等学校卒業後に親と兄がいる家業の鉄工所を一緒にする事にしました。当時は建築金物やトラックボディー金物等が主な仕事でしたが、軽量鉄骨の車庫や工場の建物に移行し、現在では、重量鉄骨が七割、工場設備のタンクや配管が三割の状態です。今回の受章は設備部門のタンク製造やサニタリー配管の技能が認められたものと思います。

また、当組合の技術委員として永年構造物鉄工技能士等の事前講習会の開催等に取り組んできた事も加味されたかもしれません・・・

会社が百五十年もの間、鉄と共に歩んできた事と、高等学校卒業後六十年弱真面目に仕事と向き合ってきた事が認められた事は幸せであり光栄に思います。



○訃報

（株）西澤製作所社長のご尊父様（創業者）西澤清様が 10 月 29 日、85 歳でご逝去されました。ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。

編集にあたって

あと数ヶ月もすればオリンピック開幕、日本での夏期大会は2回目、冬期開催の札幌、長野を含めて4回目の経験と云われる方も多いと思います。以前の東京オリンピックは、幼少で後に見聞きしただけでしたが、今回はリアルタイムでのオリンピックで楽しみです。唯一チケットがなくても夜の内に移動して場所の確保ができればマラソン観戦かなと話していましたが、自宅観戦になりそうです。

夢や希望が現実に成る事は励みになりますね、又何処かの都市が立候補して開催になればいいですね。

運営委員長
酒井 和浩



表紙のことば

常念岳と横通岳

撮影日 2013年1月6日 時間 11時30分

場所 十ヶ堰じてんしゃひろば(安曇野市)

・松本平の西に連なるのが常念岳。

ピラミッド型の勇壮でひととき美しい山である。

その横に寄り添うように、北側に並んで望めるのが横通岳である。

毎年、12月から4月初旬位の晴れ渡った空に雪を頂いた姿は、まさに絶景である。常念岳への登山道は豊科からタクシーを使い、三股へ行き、前常念岳経由、4時間30分で登り着く。

写真提供者
(有) 内川鉄工製作所
内川 健治氏

安全・安心

建築鉄骨は品質保証の時代



当組合のNTKマークが安全・安心の目印です。

長野県鉄構事業協同組合

長野市若里7丁目11番8号 坂田ビル3F TEL 026-228-5748 FAX 026-228-0590